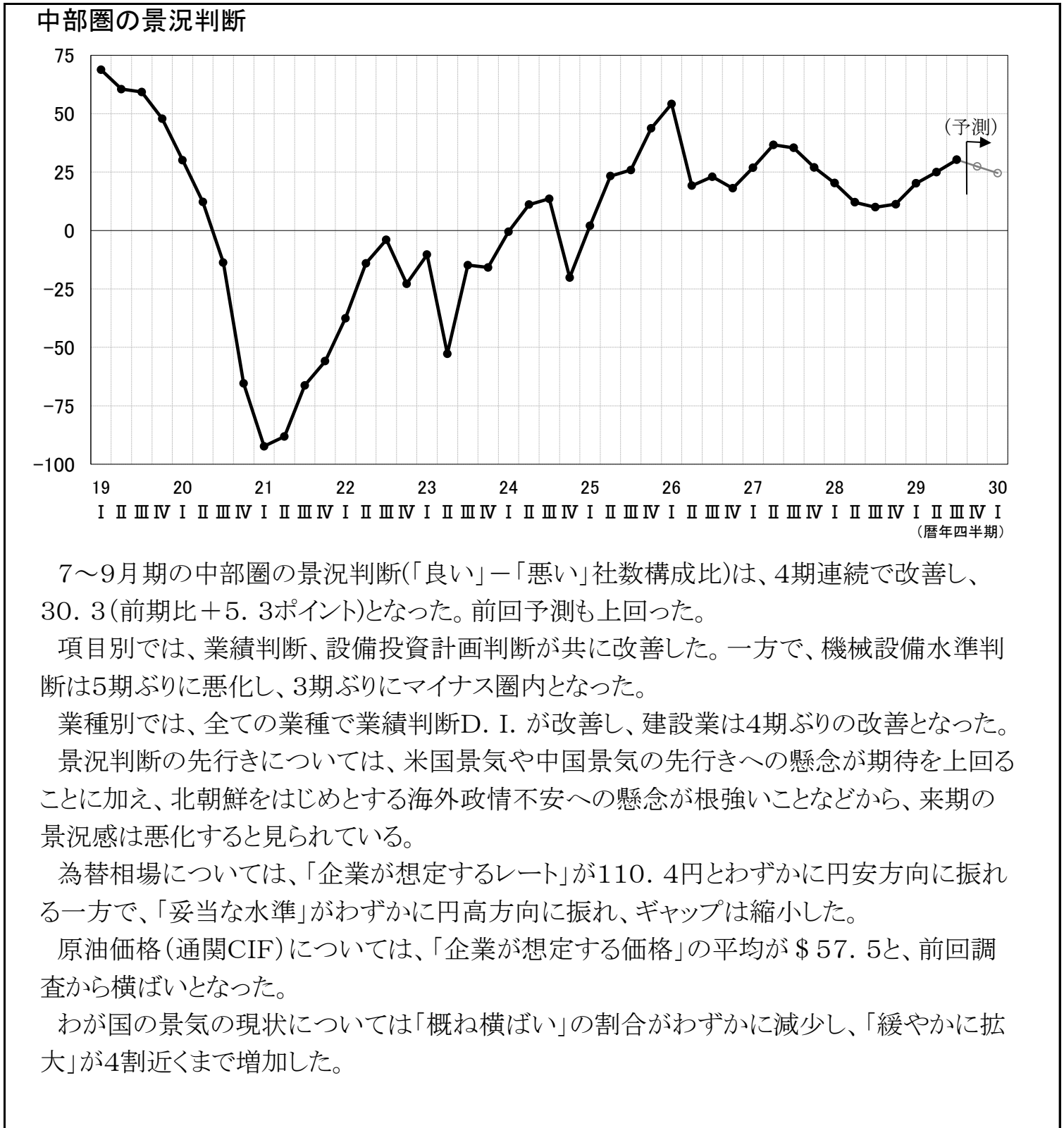


中部圏の景況感の現状（7～9月期）と見通し（1～3月期まで）

〔今回のポイント〕



〔調査の概要〕

◎調査時期 : 平成29年7月25日～8月24日

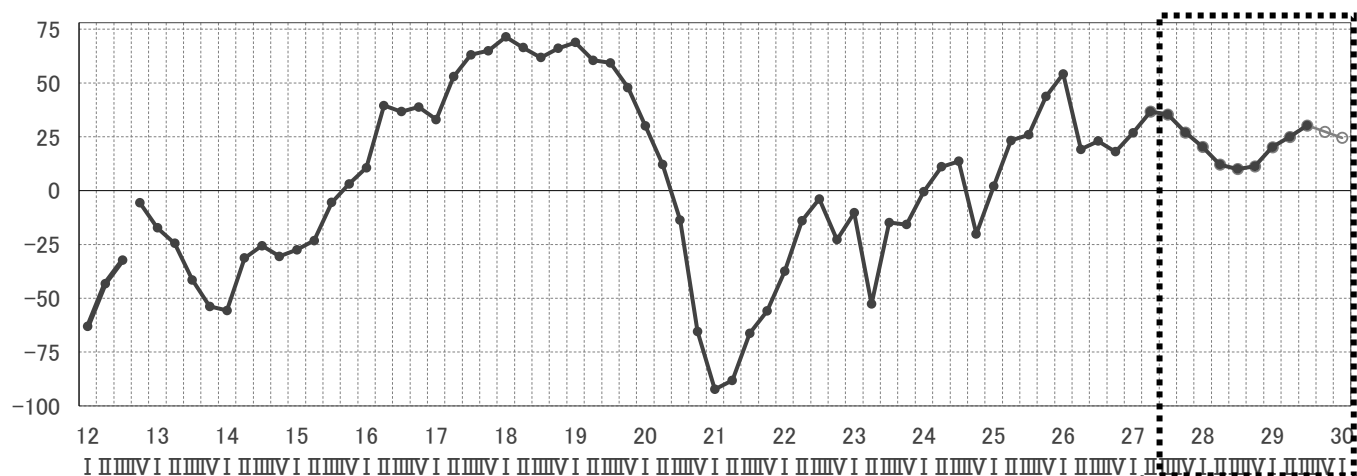
◎対象 : 法人会員代表者等

◎回答 : 253社 (回答率:37.6%、対象672社)

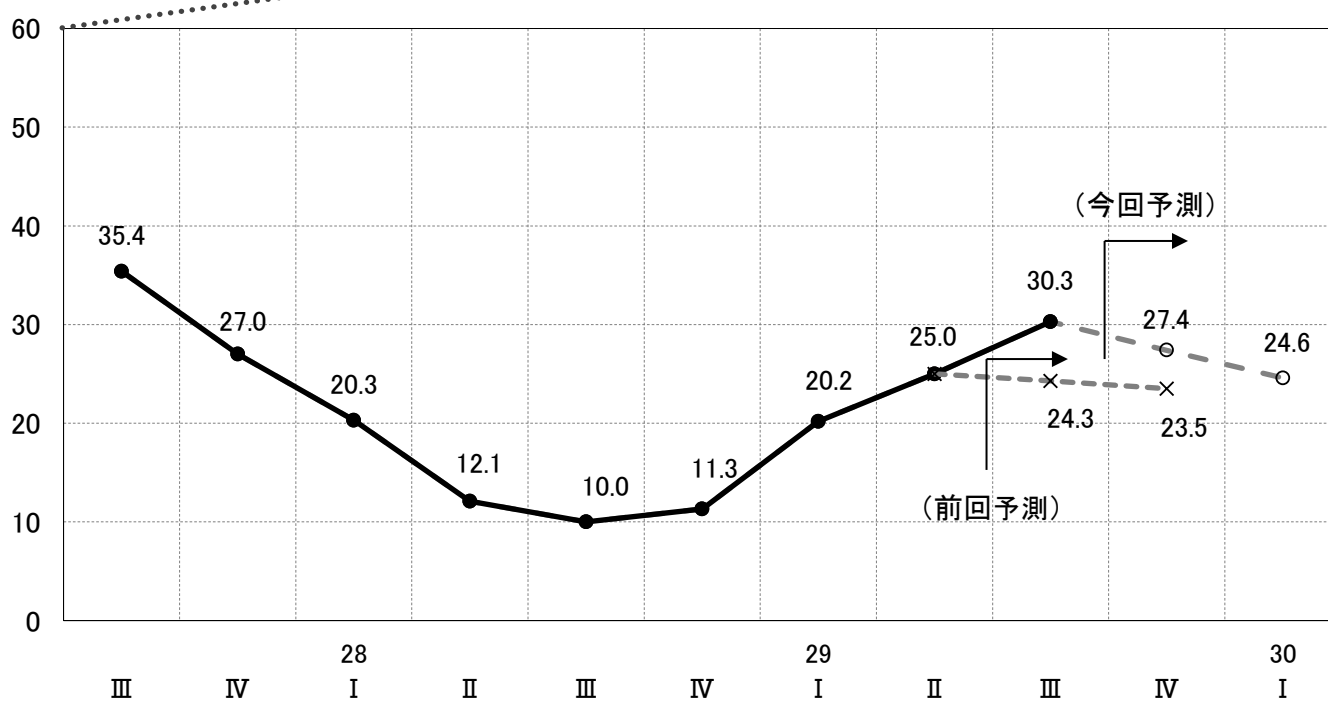
中部圏の景況感

(1) 中部圏の景況判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



[現状] 中部圏の景況判断は、4期連続で改善し、前回予測も上回った。

[今後] 来期以降は悪化するものと見られている。

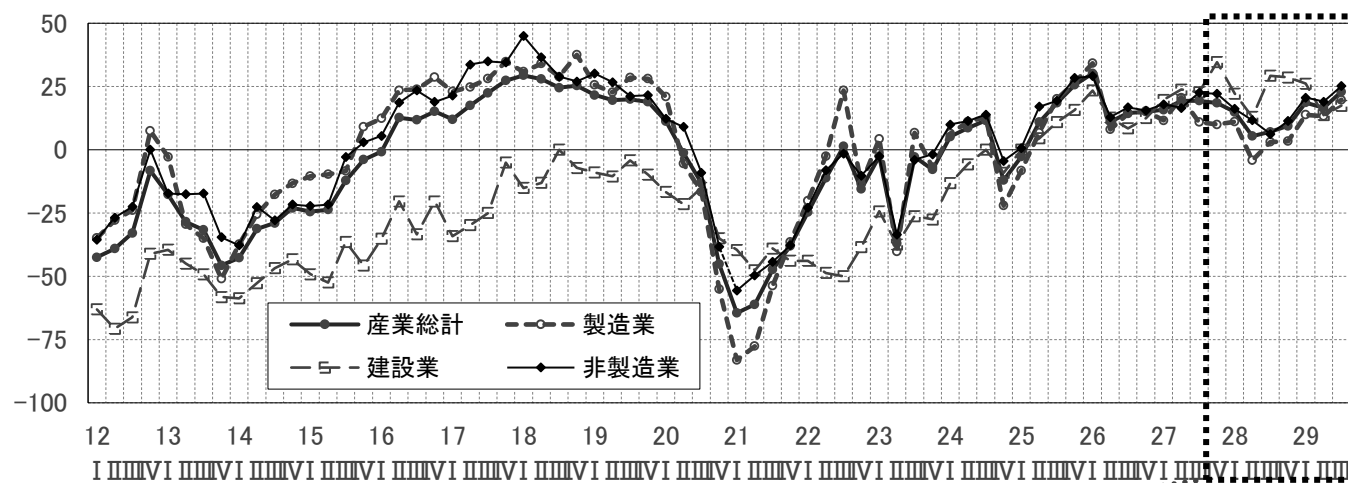
【景況判断(D. I.)の内訳】

	1 : 悪い	2 : さほど良くない	3 : 良い	D.I.(良い-悪い)
[6月]	0.4%	74.2%	25.4%	25.0
[今回]	0.4%	68.9%	30.7%	30.3

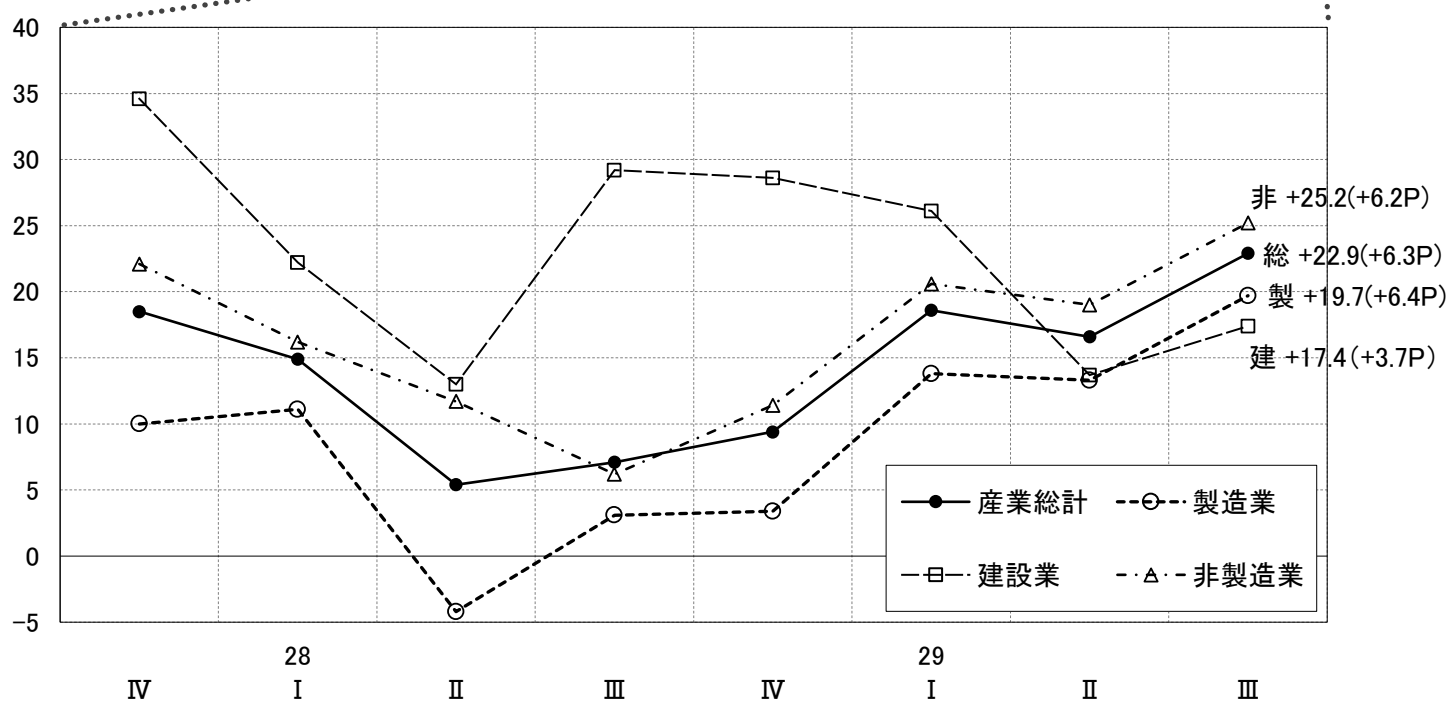
+ 5.3P

(2) 業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



()は前回差

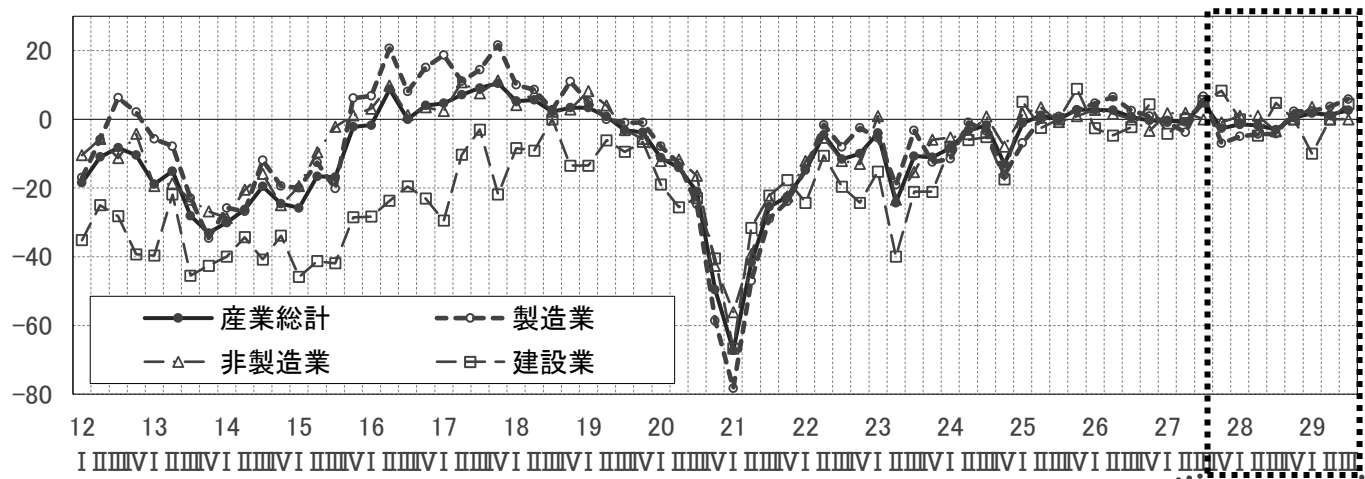
業績判断は、産業総計で改善した。
業種別では、全ての業種で改善し、建設業は4期ぶりの改善となった。

【業績判断(D. I.)の内訳】

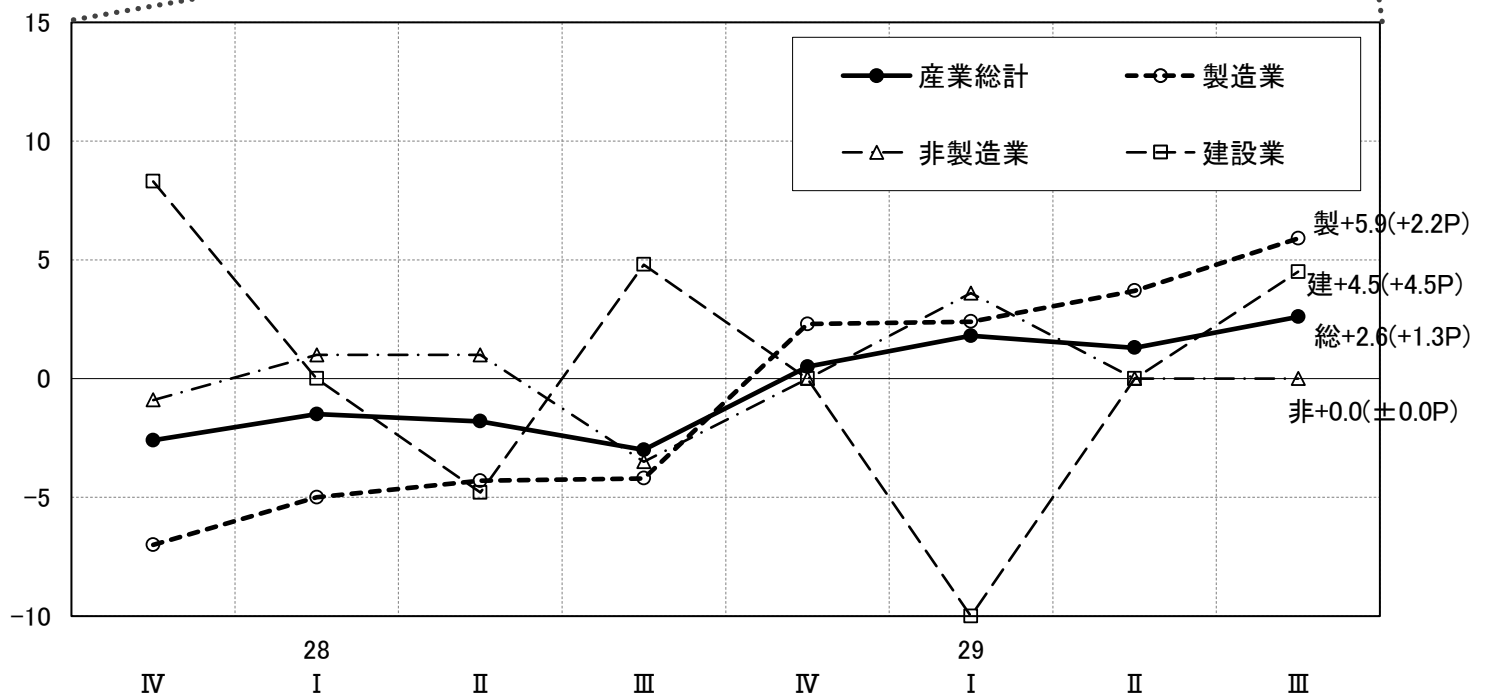
[6月]	1:悪い 6.2%	2:さほど良くない 71.0%	3:良い 22.8%	D.I.(良い-悪い) 16.6
[今回]	1:悪い 3.7%	2:さほど良くない 69.7%	3:良い 26.6%	D.I.(良い-悪い) 22.9

+ 6.3P

(3) 設備投資計画判断 [現況判断(3カ月前と比較して)：「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



設備投資計画判断は、産業総計で改善した。
業種別では、製造業や建設業が改善した一方で、非製造業は横ばいとなった。

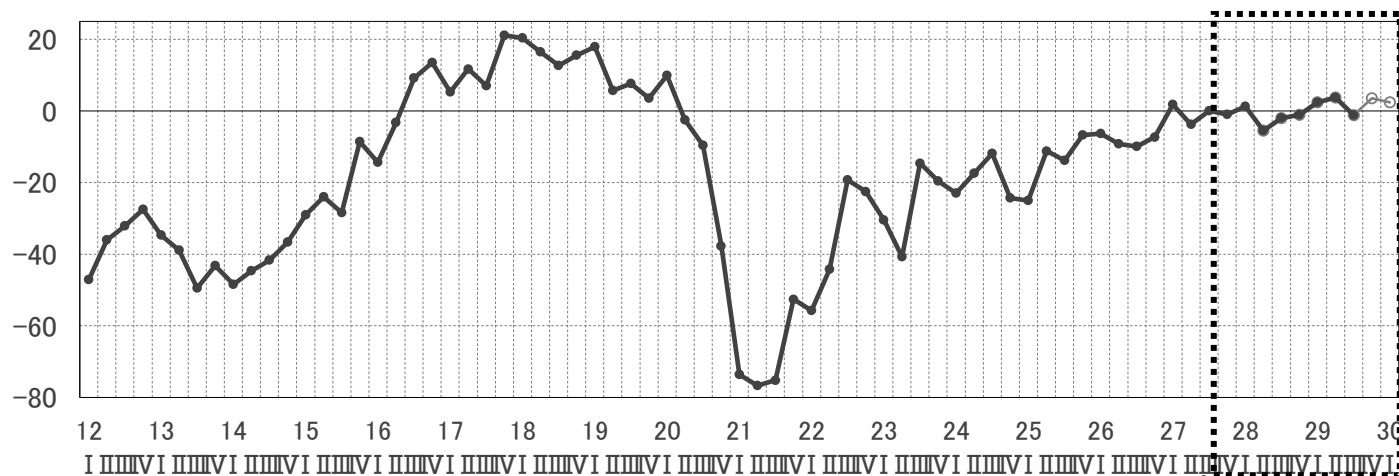
【設備投資計画判断(D. I.)の内訳】

[6月]	1:縮小・繰延べ 5.4%	2:変わらず 87.9%	3:積増し 6.7%	D.I.(積増し-縮小・繰延べ) 1.3
[今回]	1:縮小・繰延べ 3.5%	2:変わらず 90.4%	3:積増し 6.1%	D.I.(積増し-縮小・繰延べ) 2.6

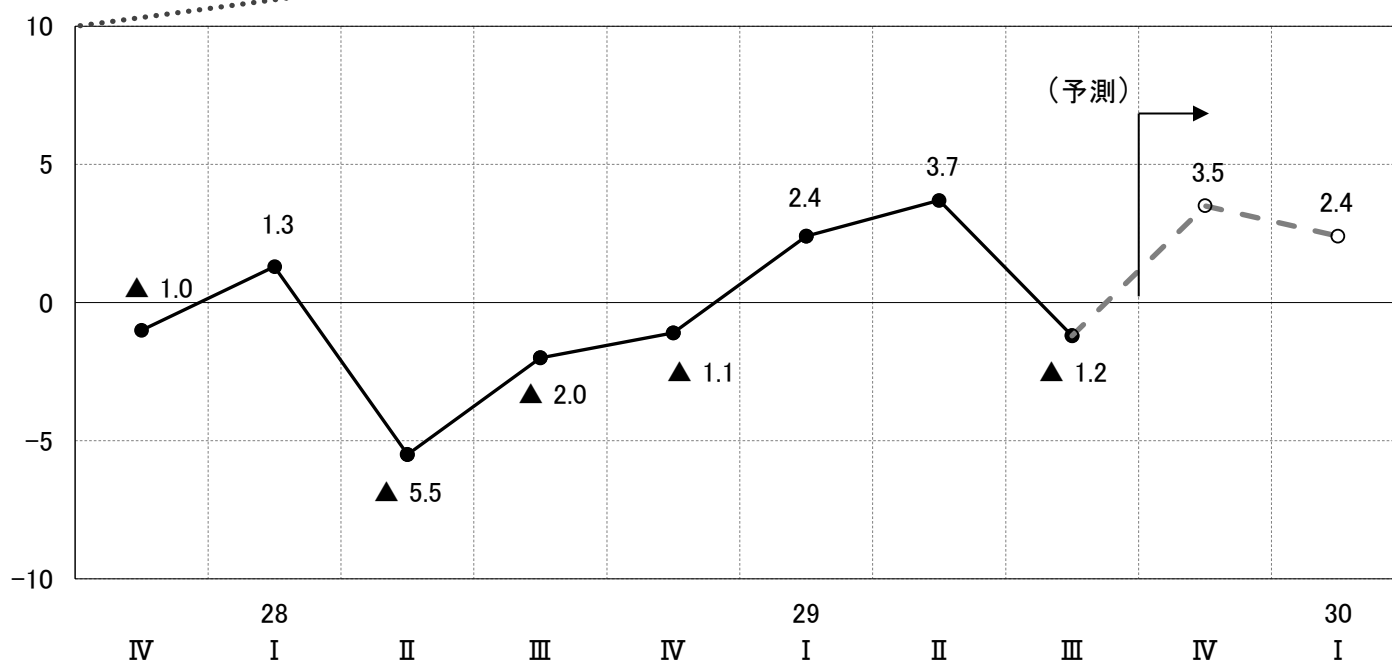
+ 1.3P

(4) 機械設備水準判断 (製造業)

[現況判断・見通し: 「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] 機械設備水準判断は5期ぶりに悪化し、3期ぶりにマイナス圏内となった。

[今後] 来期以降は改善するものと見られている。

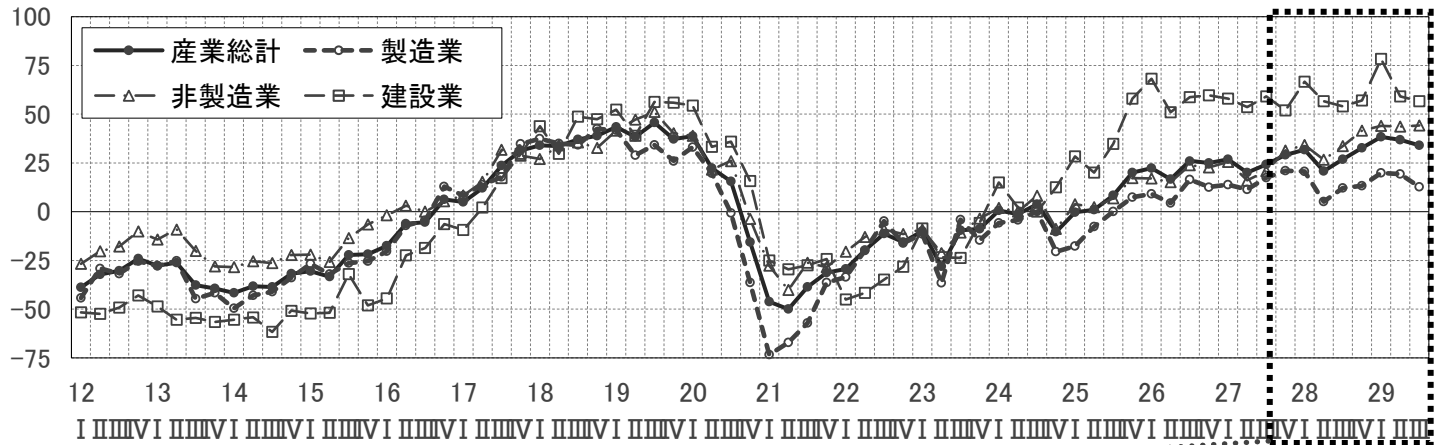
【機械設備水準判断(D. I.)の内訳】

	1 : 過剰	2 : 適正	3 : 不足	D.I.(不足-過剰)
[6月]	4.9%	86.4%	8.6%	3.7
[今回]	11.8%	77.6%	10.6%	▲ 1.2

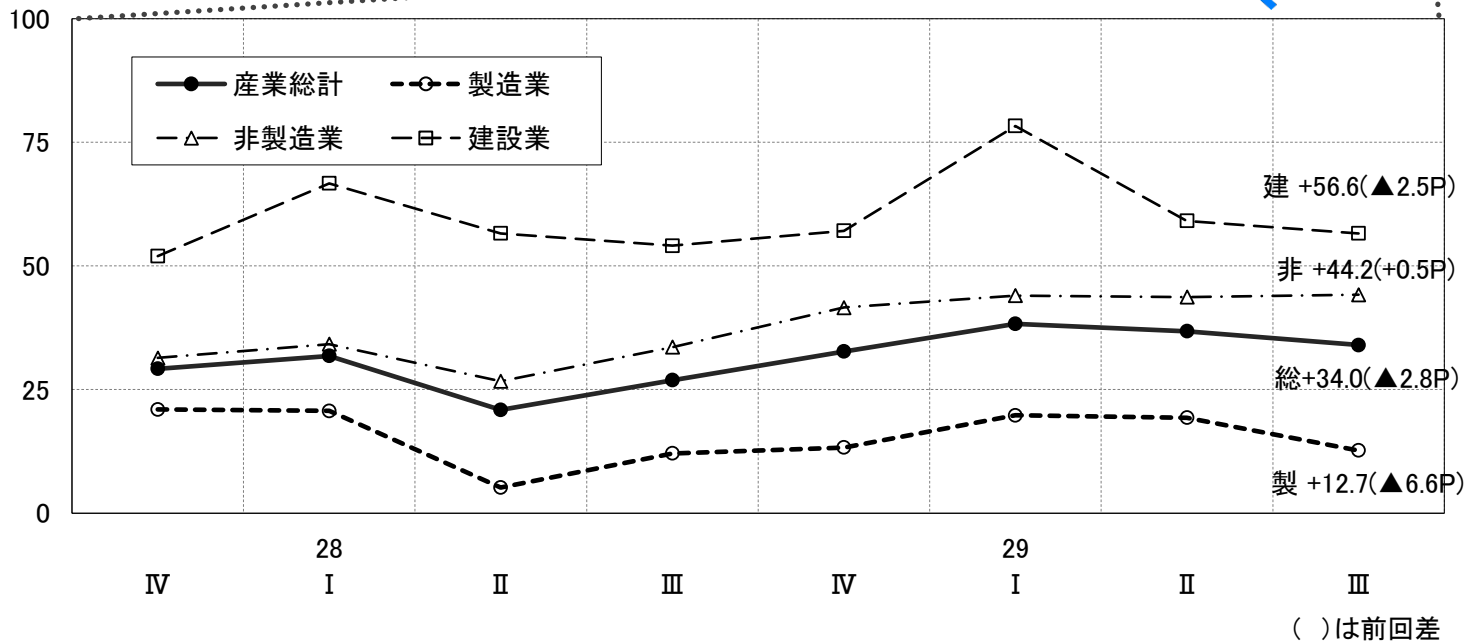
- 4.9P

(5) 雇用判断

[現況判断:「不足」-「过剩」]



【最近の動き】



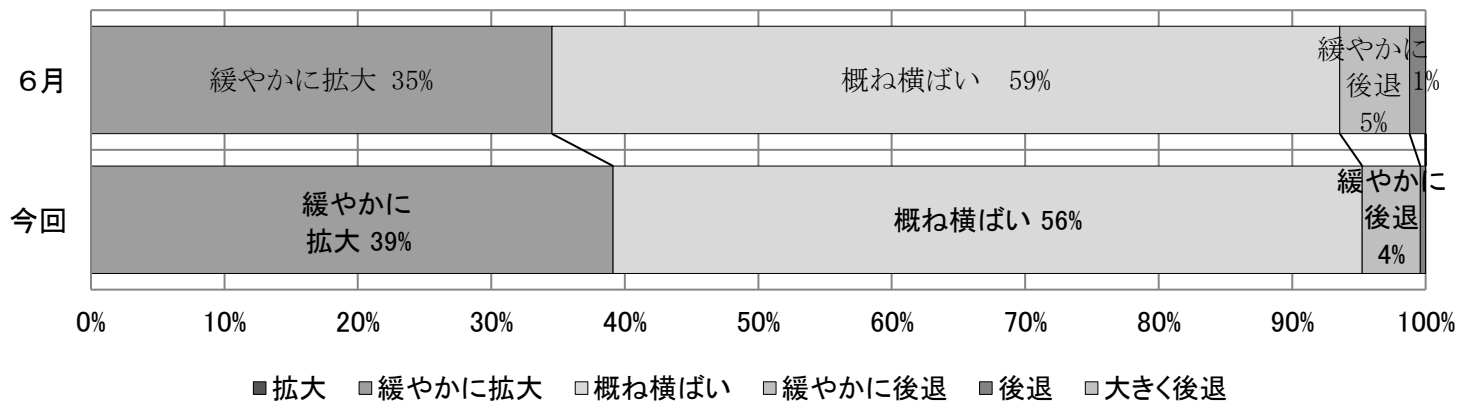
人手不足感は、産業総計でわずかに減少した。業種別では、製造業や建設業の不足感が緩和した一方で、非製造業のみ増加した。

【雇用判断(D. I.)の内訳】

業種	1:过剩	2:適正	3:不足	D.I. (不足-过剩)	変化
産業総計 [6月]	2.9%	57.3%	39.7%	36.8	- 2.8P
[今回]	5.0%	56.0%	39.0%	34.0	
製造業 [6月]	3.6%	73.5%	22.9%	19.3	- 6.6P
[今回]	8.0%	71.3%	20.7%	12.7	
非製造業 [6月]	2.2%	51.9%	45.9%	43.7	+ 0.5P
[今回]	3.1%	49.6%	47.3%	44.2	
建設業 [6月]	4.5%	31.8%	63.6%	59.1	- 2.5P
[今回]	4.3%	34.8%	60.9%	56.6	

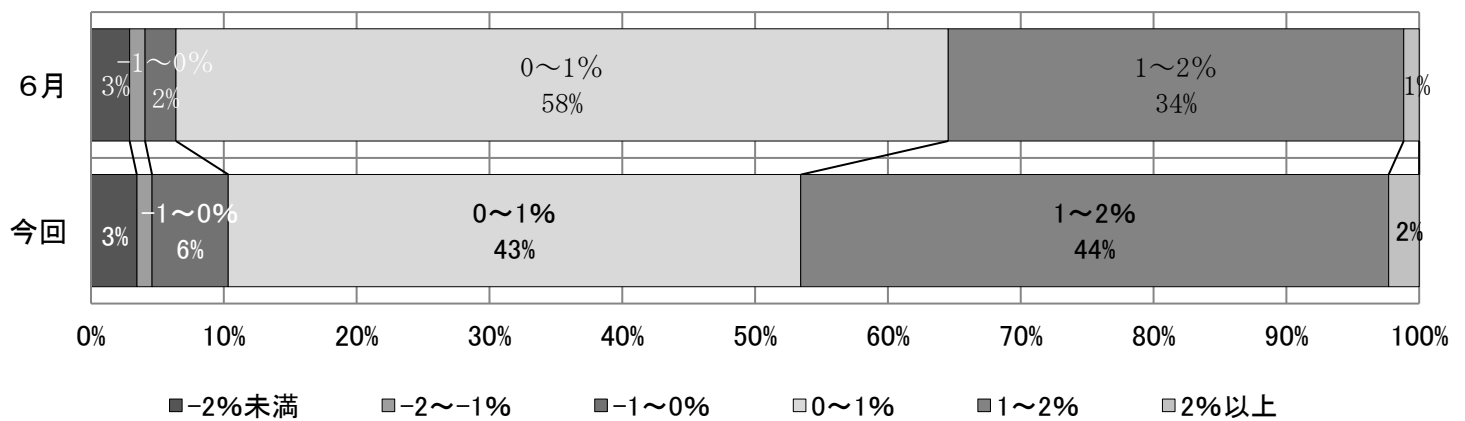
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気の現状について



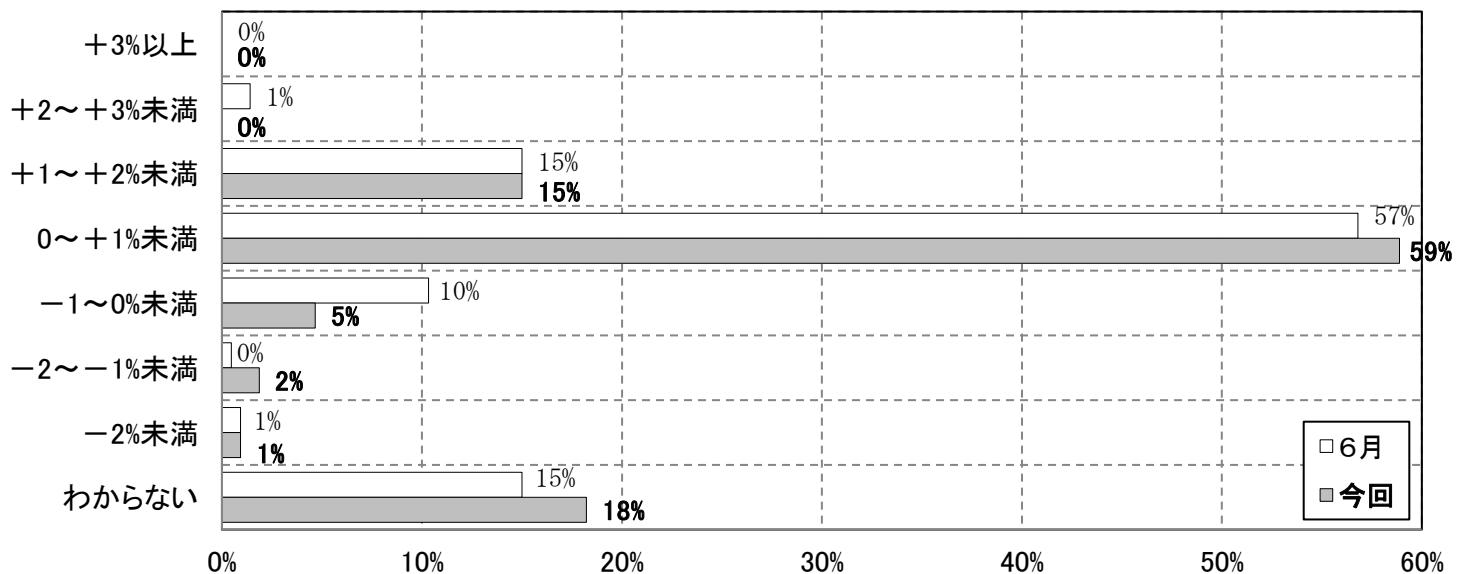
「概ね横ばい」、「緩やかに後退」が減少し、「緩やかに拡大」がわずかに増加した。

(2) 平成29年度の経済成長率（GDP）見通しについて



「0~1%未満」の割合が減少し、「1~2%未満」の割合が増加した。

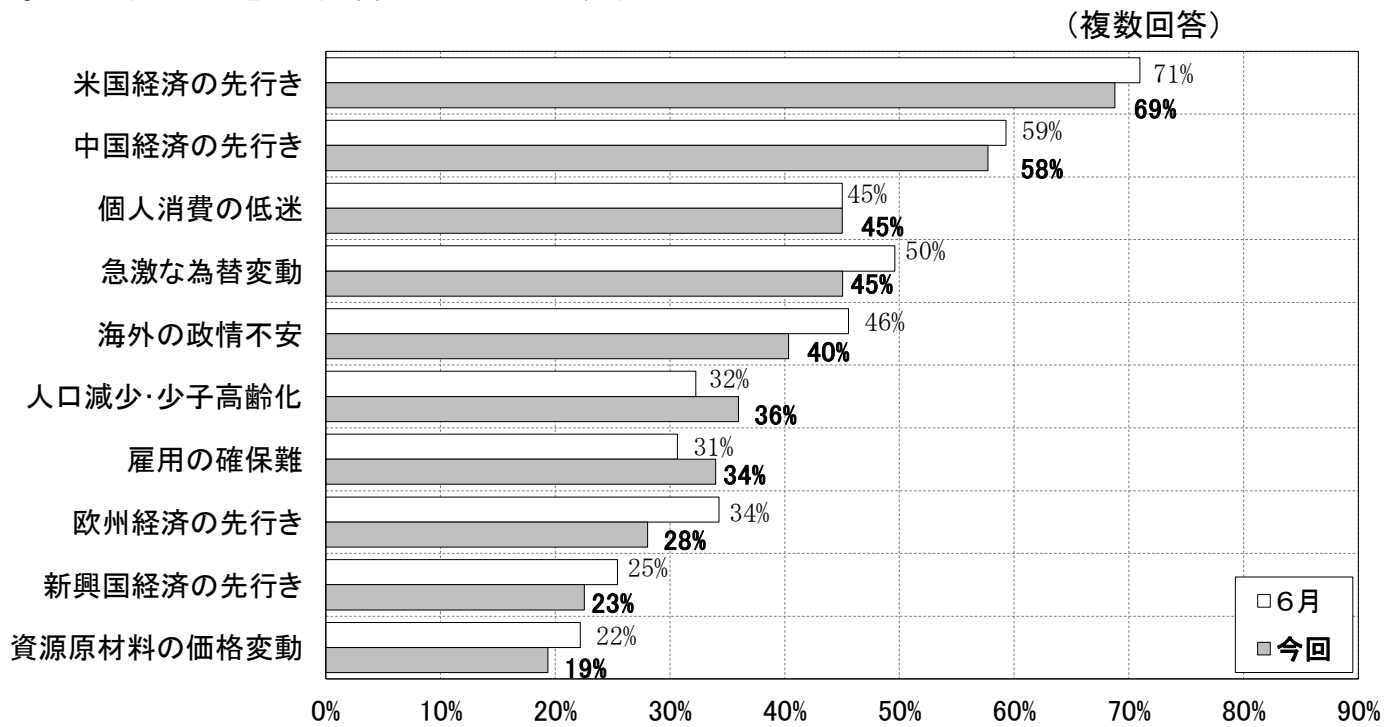
(3) 平成29年度末の物価見通しについて



「-1~0%未満」の物価上昇率を予想する回答の割合が減少し、「0~+1%未満」の物価上昇率を予想する割合が増加した。

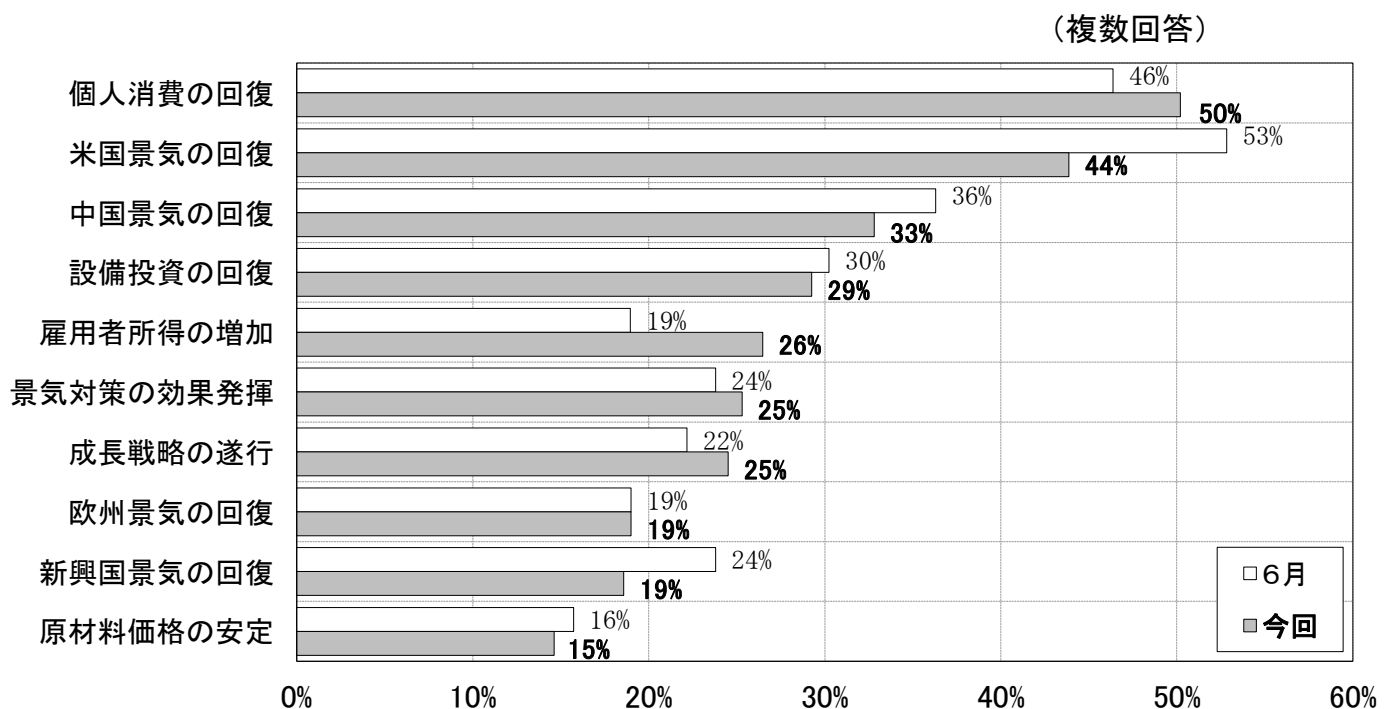
2. 景気先行きの懸念材料・期待材料と経済政策への期待について

(1) 景気先行きの懸念材料 (上位10項目)



「米国経済の先行き」、「中国経済の先行き」、「個人消費の低迷」、「急激な為替変動」への懸念が上位を占めた。「人口減少・少子高齢化」、「雇用の確保難」を懸念する企業が増加した。

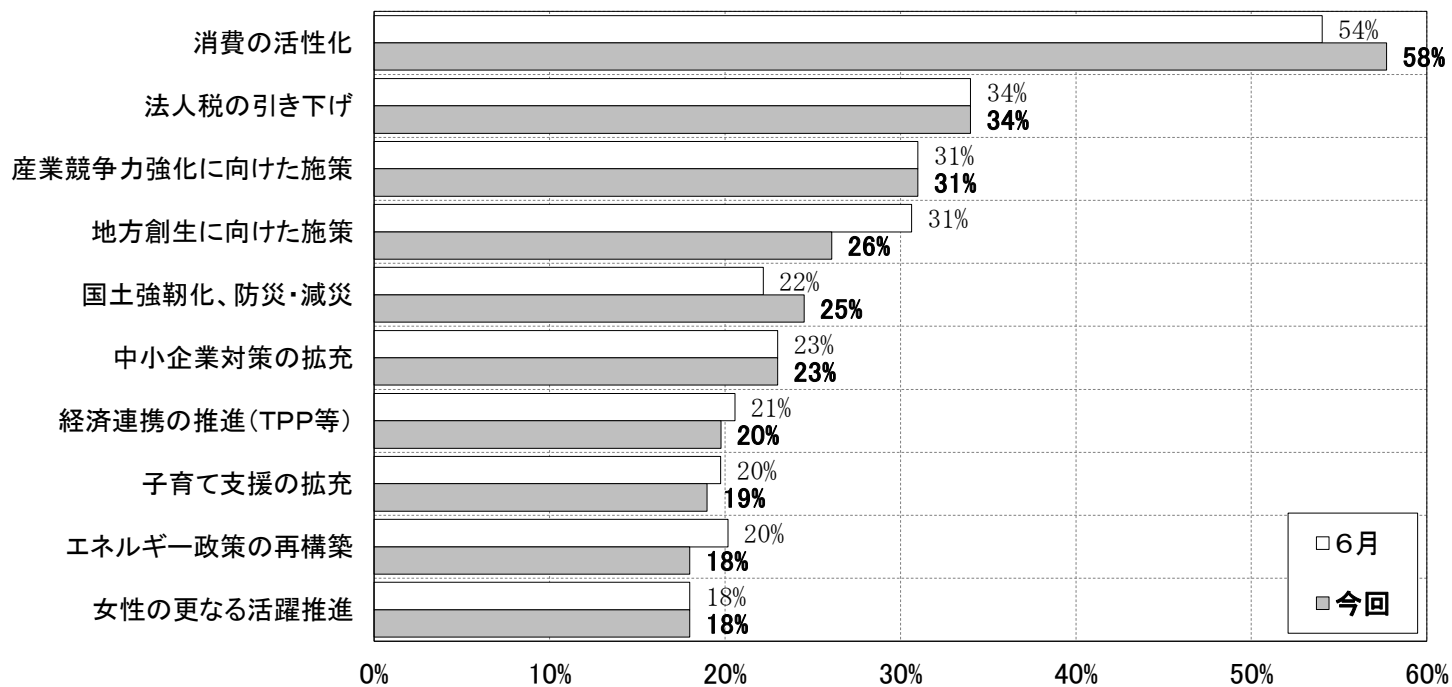
(2) 景気先行きの期待材料 (上位10項目)



「個人消費の回復」への期待が最も多く、次いで「米国景気回復」、「中国景気回復」、「設備投資の回復」に対する期待が上位を占めた。また、「個人消費の回復」、「雇用者所得の増加」、「景気対策の効果発揮」、「成長戦略の遂行」に期待する企業が増加した。

(3) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて (上位10項目)

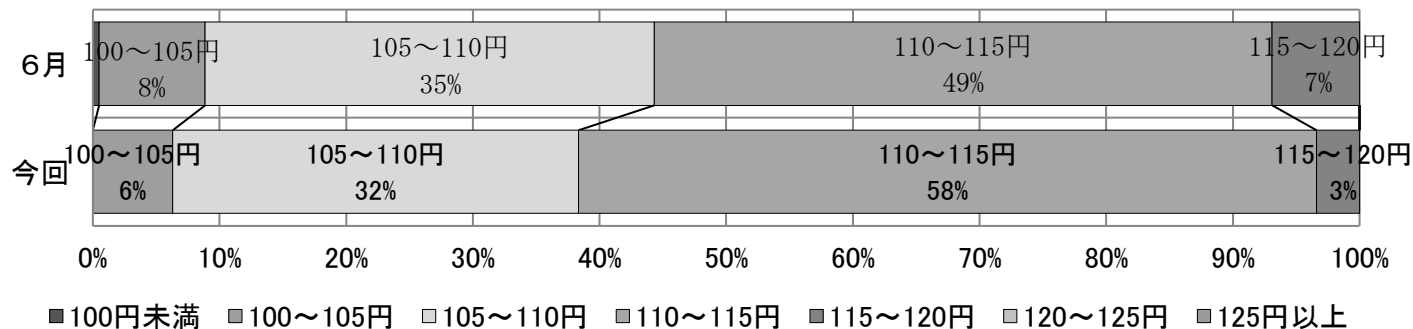
(複数回答)



「消費の活性化」、「法人税の引き下げ」、「産業競争力強化に向けた施策」、「地方創生に向けた施策」への期待が前回と変わらず上位を占めた。
 また、「消費の活性化」、「国土強靱化、防災・減災」に期待する企業が増加した。

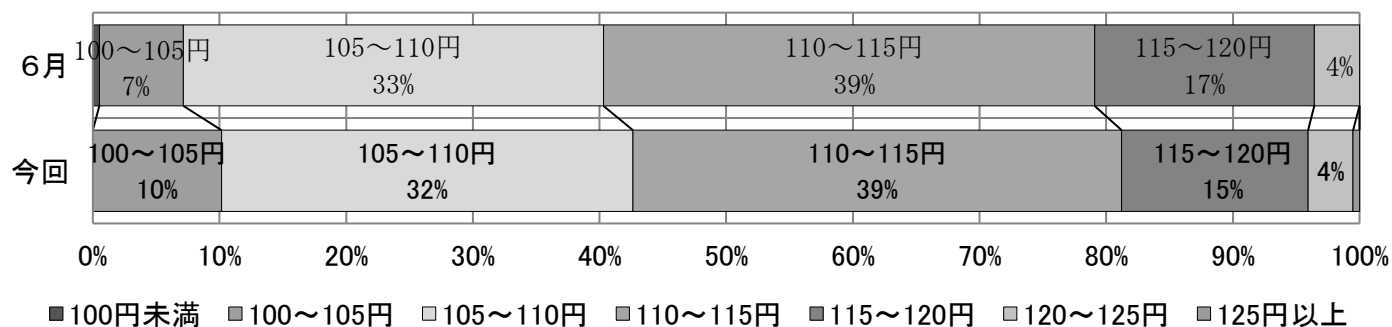
フォーカス② 為替レートについて

(1) 平成29年度上期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



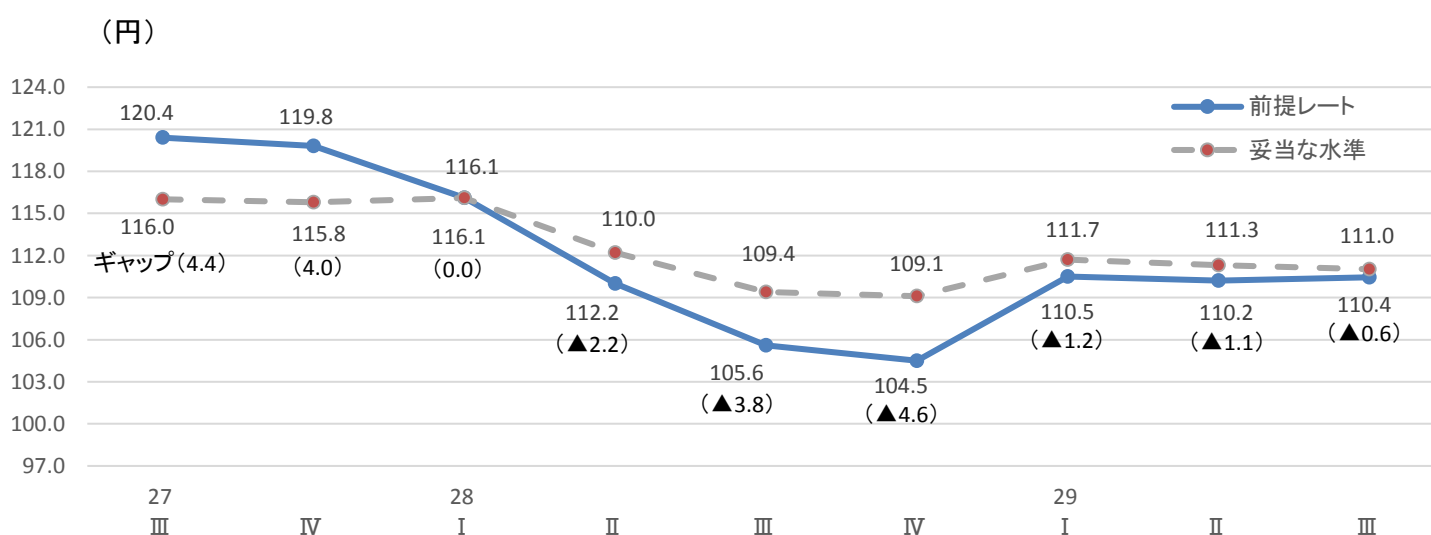
「110円未満」の回答が減少した一方で、「110～115円」が増加した。

(2) 為替レートの妥当な水準 対ドル・円レート



「105～115円」を妥当とする回答が前回に引き続き全体の7割超となった。

(3) 業績予想の前提レートと妥当な水準の推移



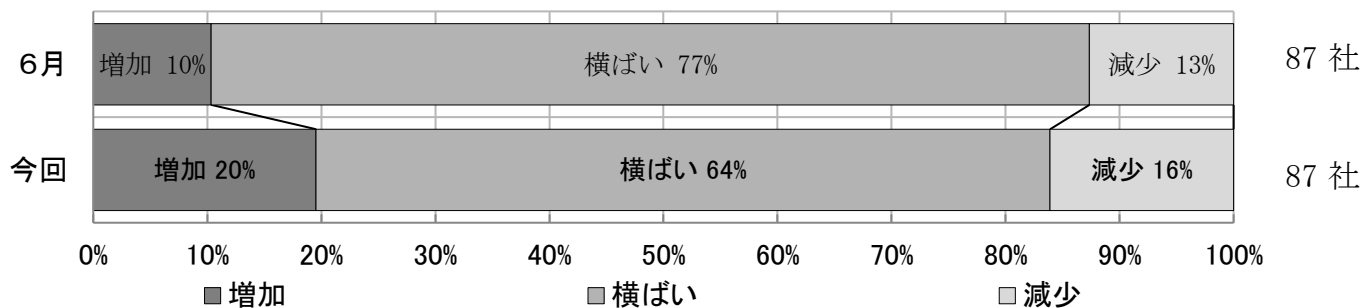
「業績予想の前提レート」がわずかに円安方向に振れた一方で、「妥当な水準」がわずかに円高方向に振れ、ギャップは縮まった。

(注) 数値は単純平均値
 ギャップ()は「前提レート」－「妥当な水準」の値

フォーカス③ 輸出の増減について

(1) 貴社の輸出の増減について（輸出を行う企業のみを対象）

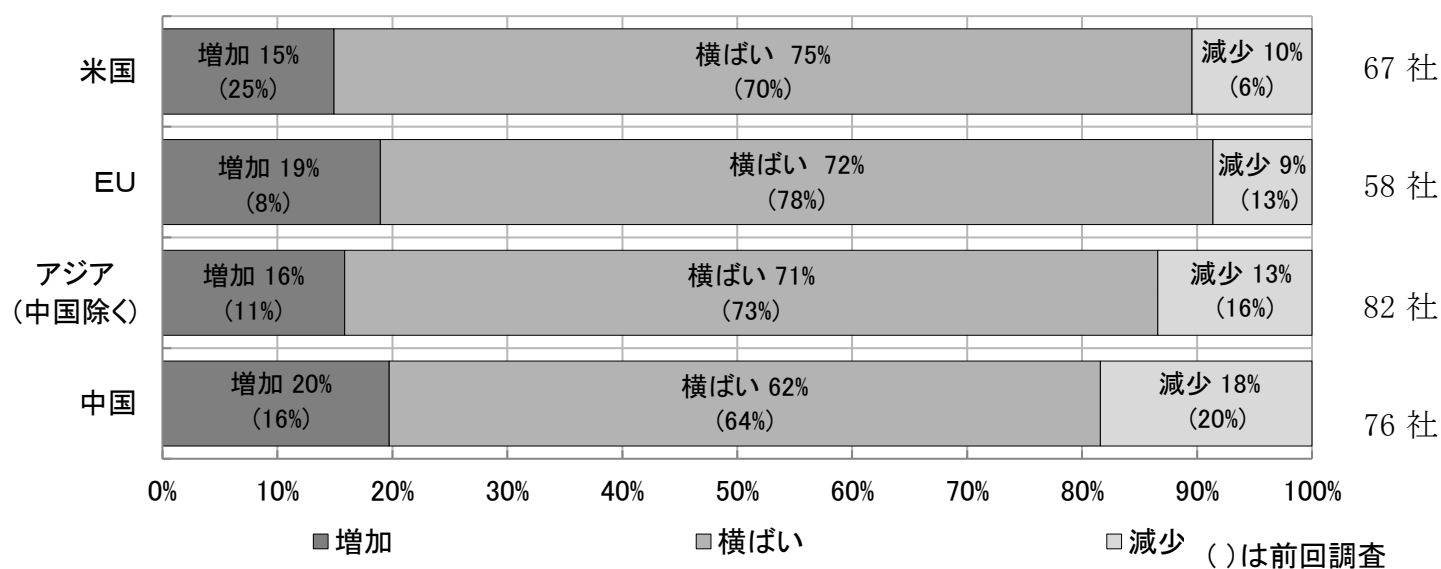
(回答社数)



前回と比較すると、「増加」の割合が上昇し、「横ばい」の割合が低下した。

(2) 地域別輸出の増減

(回答社数)

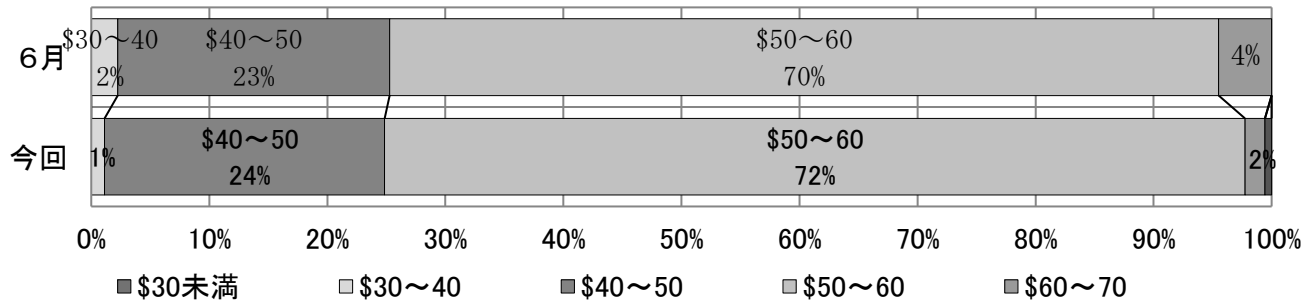


全地域で「横ばい」が最も多い。

前回と比較すると、EU、アジア、中国向けで増加方向の変化が見られる。

フォーカス④ **原油価格について**

(1) 平成29年度上期の業績予想の前提 原油価格〔通関（C I F）〕



「\$ 50～60」の回答が前回と変わらず全体の約7割を占めた。
前回と比較し、予想価格は横ばいとなった。

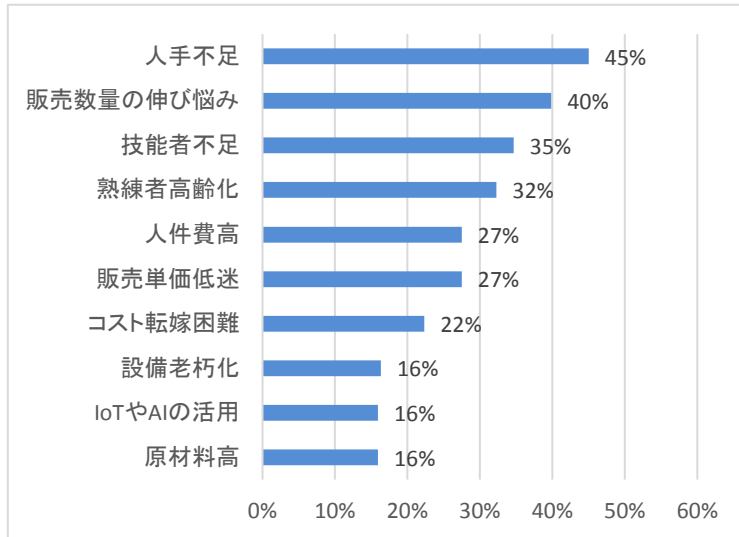
(参考)単純平均値 今回: \$ 57. 5 前回: \$ 57. 5

フォーカス⑤

経営上の課題について

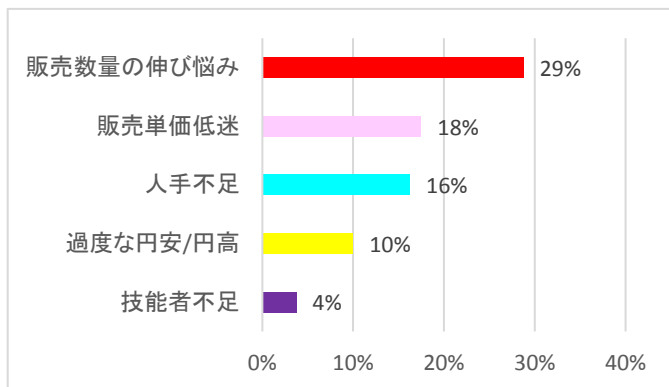
(1) 経営上の課題に該当するもの（産業総計 上位10項目）

（複数回答）

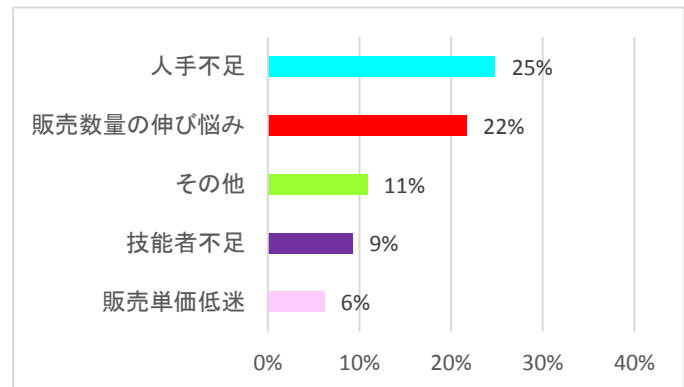


(2) そのうち最も大きな課題（上位5項目）

・製造業

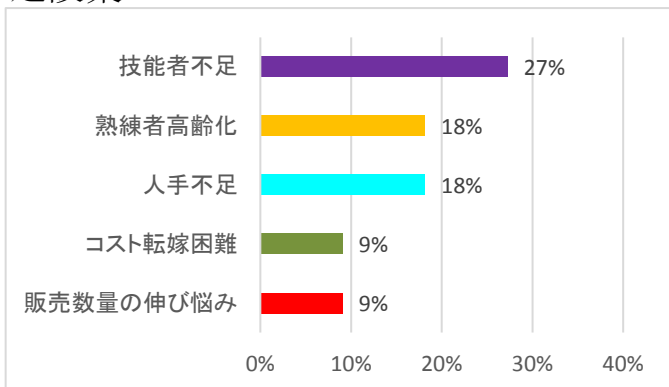


・非製造業



◆その他: 金利低迷、財務体質の改善、働き方改革など

・建設業



経営上の課題は、産業総計では「人手不足」、「販売数量の伸び悩み」、「技能者不足」の順に多い。「IoTやAIの活用」への課題意識も高まっている。
 そのうち最も大きな課題については製造業で「販売数量の伸び悩み」、非製造業で「人手不足」、建設業では「技能者不足」が最多となっている。
 とりわけ、非製造業では「人手不足」が「販売数量の伸び悩み」に代わって最上位の課題となった。

<参考> 時系列データ

		平成28年		平成29年		
		Ⅲ (7-9月)	Ⅳ (10-12月)	Ⅰ (1-3月)	Ⅱ (4-6月)	Ⅲ (7-9月)
中部圏の景況感						
景況判断(D. I.)		10.0	11.3	20.2	25.0	30.3
業績判断(D. I.)	産業総計	7.1	9.4	18.6	16.6	22.9
	製造業	3.1	3.4	13.8	13.3	19.7
	非製造業	6.2	11.4	20.6	19.0	25.2
	建設業	29.2	28.6	26.1	13.7	17.4
設備投資計画判断(D. I.)	産業総計	-3.0	0.5	1.8	1.3	2.6
	製造業	-4.2	2.3	2.4	3.7	5.9
	非製造業	-3.5	0.0	3.6	0.0	0.0
	建設業	4.8	0.0	-10.0	0.0	4.5
機械設備水準判断(D. I.)		-2.0	-1.1	2.4	3.7	-1.2
雇用判断(D. I.)	産業総計	26.9	32.7	38.3	36.8	34.0
	製造業	12.1	13.3	19.8	19.3	12.7
	非製造業	33.6	41.6	44.0	43.7	44.2
	建設業	54.1	57.1	78.3	59.1	56.6
景気の現状とGDP見通し(フォカ①)						
景気の現状	拡大	0%	0%	0%	0%	0%
	緩やかに拡大	10%	11%	32%	35%	39%
	概ね横ばい	71%	69%	59%	59%	56%
	緩やかに後退	15%	17%	8%	5%	4%
	後退	3%	3%	1%	1%	0%
	大きく後退	0%	0%	0%	0%	0%
GDP見通し	-2%未満	3%	1%	3%	3%	3%
	-2%~-1%未満	1%	2%	1%	1%	1%
	-1%~0%未満	9%	10%	4%	2%	6%
	0%~1%未満	66%	66%	60%	58%	43%
	1%~2%未満	19%	20%	31%	34%	44%
	2%以上	2%	1%	1%	1%	2%
為替レート(フォカ②)						
業績予想の前提(対ドル・円レート)						
95~100円未満(平成28年Ⅱ期から100円未満)		0%	1%	1%	0%	0%
100~105円未満(平成27年Ⅳ期から平成28年Ⅰ期は105円未満)		56%	64%	7%	8%	6%
105~110円未満		31%	29%	35%	35%	32%
110~115円未満		8%	5%	45%	49%	58%
115~120円未満		4%	1%	12%	7%	3%
120~125円未満		0%	0%	1%	0%	0%
125~130円未満(平成28年Ⅱ期から125円以上)		0%	0%	0%	0%	0%
130円以上		-	-	-	-	-
想定レートと妥当な水準(単純平均値 円/\$)						
想定レート		105.6	104.5	110.5	110.2	110.4
妥当な水準		109.4	109.1	111.7	111.3	111.0
輸出の増減(フォカ③)						
輸出の増減	増加	16%	11%	20%	10%	20%
	横ばい	67%	72%	66%	77%	64%
	減少	17%	17%	13%	13%	16%
米国	増加	21%	16%	25%	25%	15%
	横ばい	65%	72%	67%	70%	75%
	減少	15%	12%	8%	6%	10%
EU	増加	10%	8%	14%	8%	19%
	横ばい	73%	79%	80%	78%	72%
	減少	17%	13%	6%	13%	9%
アジア(除く中国)	増加	14%	10%	19%	11%	16%
	横ばい	71%	74%	69%	73%	71%
	減少	14%	16%	13%	16%	13%
中国	増加	9%	19%	16%	16%	20%
	横ばい	61%	59%	69%	64%	62%
	減少	30%	23%	16%	20%	18%